

グループの資金一括管理「CMS」

クラウドで安価に導入

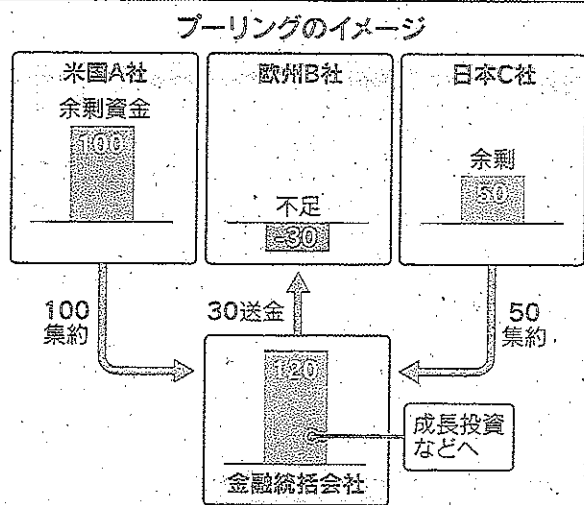
グループ企業の資金などを一括管理する仕組み「キャッシュ・マネジメント・システム(CMS)」を取り入れたり、拡充したりする企業が増えている。クラウドの普及で専用システムの導入費用が大きく低下しているため、海外進出やM&A(合併・買収)でグループ社数が増える企業は多く、CMSを使った効率的な資金管理を進める企業が増えつつだ。

CMSの代表的な機能は「ブリング」で、各子会社の余剰資金を本社など一つの会社を集め、各社で資金が不足した時に必要分を送る仕組みだ。本社が機動的に使える資金が増えるほか、不足分を金融機関など外部から借り入れる量が減り、利払い費用と有利子負債の削減につながりや

統合世界でオリンパス 10子会社中国重慶に

すい。また、各社の資金状況が把握できるため、グループのガバナンスも強化される。

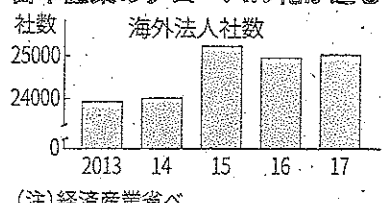
ここにきてCMSをはじめたり、広げたりする企業が増えているのは、IT(情報技術)の進化に伴う導入費用の低下だ。かつては会計システムにつなぐ専用システムを自前のサーバーで用意



すると10億円規模の投資が必要で、世界展開する大規模な企業に限られていた。サーバーを共用するクラウドだと費用が100.0万円程度ですむようになり、導入しやすくなっている。

IHIは日本だけで取り入れていたブリングを4月から北米に広げた。余剰資金の集約と送

日本企業のグローバル化が進む



日米欧のグループ企業間で発生する債権債務を相殺する「ネットティング」も始める。毎月債権と債務の決済日を決め、輸出入時の支払いと受け取りをまとめることで外貨の利用を抑制。営業外で発生する為替差損益への影響を3割減らせるという。

川崎重工業は21年3月期に中国でブリングを始める。従来は日本のみで運用していた。対象は約10社の子会社で、年間50億円の借り入れ削減につながる。アマダホールディングスは昨年12月から北米、中国でブリングを開始した。

経済産業省のアンケート調査によると、日本企

業の海外現地法人数は2017年度が約2万5000社と5年前から約1700社(7%)増え、企業のグローバル化が進んでいる。CMS動向に詳しいコンサル会社によると、グローバルにCMSを導入する際の代表的なシステムを利用する国内企業数は10年の10社程度から直近は70社前後まで増えているという。

グローバルにブリングを行う場合の資金移動は、一つの金融機関を活用したほうが効率的だ。日本の大手銀行が買収や提携などで海外の拠点数を広げていることもCMSの普及を後押しする。

KPMGコンサルティングによると「企業からCMS導入についての相談は増えているという。PwCあらたは「買収した海外企業の財務をコントロールできず、プラットフォーム化している企業は多い。CMSの重要性は高い」と指摘する。

日本企業のグローバル化は不可逆な流れだけに、ITの進歩で導入へのハードルが下がるほどCMSの裾野は一段と広がる可能性がある。